

第5回県立高等学校の在り方検討委員会の概要

日時：令和6年4月25日（木） 13:30～16:00

場所：高知県人権啓発センター 6階 ホール

第1 会次第

1 開会

(1) 教育次長挨拶

2 議事

- ・ 中間とりまとめ（案）
- ・ 入試制度の在り方について

3 閉会

- (1) 教育次長挨拶
(2) 諸連絡

第2 議事における質疑応答

1 中間とりまとめ（案）

（委員長）

事務局から説明がありましたが、この委員会から教育委員会に対して中間とりまとめの報告をするということです。資料3-1が検討にあたっての基本的な考え方・視点で、国の方針、県全体の方針、教育以外を含めた中山間の地域再興ビジョンなどを背景として進めていくということで整理されています。今日は、資料3-2の大きな4つの項目、適正規模、最低規模、適切配置について確認していただきます。学校の魅力化・特色化については、ご意見をいただいている途中ですので、次回以降もう少し議論を進めていきます。

まずは、資料3-2の最初のページ、適正規模について確認します。これまでいただいたご意見として、現在の計画が一番左側の欄になりますが、この計画が策定された当時と比べますと、少子化が加速度的に進んでいます。教育を取り巻く環境も大きく変わってきました。特にICTの活用が広く普及し、適正規模が大きな縛りではなくなっているのではないかという意見がありました。こういう意見を踏まえて、現状、それぞれの学校において教育活動がしっかり行われている。そして、一人一台タブレット端末も導入されているということで、教育の質が確保されているのであれば、必ずしも適正規模を設定する必要はないのではないかという方針でご議論をいただいたかと思います。

この委員会としては、ICTを活用した学びの導入などにより教育の質が確保されるとすれば、必ずしも適正規模を設定する必要はないのではないかという方向性ですけれ

ども、委員の皆さんからご意見はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

次に最低規模です。まずは、全日制について確認します。ICTの普及もあって、小規模校でも教育効果は十分に上げられる。従って、従来の最低規模の考え方は変えてもいいのではないかというご意見がありました。このご意見を踏まえて、考え方の一つとしては、小規模校においても遠隔授業やICTを活用することで、協働的な学びができる環境が確保できるのではないか。そこで、最低規模は設定しなくてもよいのではないかということは一つの丸に書いてあります。今まで最低規模は計画を考える意味で縛りになってきたのですが、そこが大きく方向を変えることとなります。

ただ、最低規模は設定しないけれども、集団生活における社会性の育成や協働的な学びにはある程度の生徒数が必要であるという考え方から、本校であれば1学級20人以上、分校であれば1学年1学級10人以上が望ましいという目標値は残していく。この目標値に向かって、地域と一体になって取り組んでいくという方向性で考えてきましたが、いかがでしょうか。

(委員)

基本的には今の方向性で問題ないと思いますが、文言の書き方が気になります。

例えば、検討委員会での意見で、最低規模が明確になると、満たされない学校が存続すべきでないという発信になるので、最低規模は設定しなくてよいのではないかという考え方はその通りだと思います。

検討委員会における方向性の二つ目ですが、「望ましいという数値目標を目標値として残し」という表記になると、結局下回ったら望ましくないことになる気がします。一方で、何らかの目安は必要であることは共有されている議論だと思います。「望ましい」や「目標とする」というと価値判断が入る気がして、中間まとめや最終答申に向かうところで、どのような表現がふさわしいかは検討してよいと思います。なので、本校は1学年1学級20人以上、分校は1学年1学級10人以上を目安とし、数値は残す。目安に対して、維持するための環境づくりに取り組んでいく必要があるという形でよいのではないかと思います。

(委員長)

「望ましい」や「目標」というと、それを下回ったら望ましくない従来通りのイメージになってしまうことは確かにあります。ただ、集団生活における社会性の育成や協働的な学びが必要であることは間違いないので、「目安とする」など言い回しを事務局の方で工夫していただくということをお願いします。

次に、定時制です。多様な学びを保障するという観点から、特定の規模を強く要求する必要はないのではないか。また、望ましい生徒数を維持できない場合には、ICTを活用して通信制と組み合わせることも必要ではないかというご意見があったと思います。このような意見を踏まえて、多様な学びを保障する定時制の役割として、最低規模を設定する必要はないのではないか。ただし、昼間部は1学年1学級20人以上、夜間部は学校全体の生徒数20人以上が望ましいという数値目標を残して、ICTを活用した学びを取り入れ、個に応じた支援を行う必要があるという考え方を提示する。また、望ましい生徒数を維持できない場合には、定時制と通信制を組み合わせたサテライト校化の検討など、生徒の教育機会の確保に向けた今後の在り方を検討する必要があるのではないかという考え方でとりまとめたということです。本質的には先ほどと同じ議論で規模が小さいから駄目というニュアンスは全く設けなくて、定時制の場合には、多様な学びを保障するためにどうやって保障していくか、残していくかという議論だと思います。

この方向性について、皆さんからご意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。二つ目の望ましい生徒数を維持できない場合にはという部分は、極端に生徒数が減少した場合には、など望ましくないイメージにならない言い方を工夫していただくということでもよろしいでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

次に適切配置です。全日制の普通科ですが、これまでいただいた意見としては、ほとんどの生徒が通学できる範囲に普通科が配置されていて、現在の配置でよいのではないかという意見が大勢だったかと思います。このような意見を踏まえて、それぞれの地域での学びの場が確保されていることから、「普通科については現在の配置を継続してよいのではないか」という考え方とする。そのうえで、進学拠点校を県全体のバランスも考慮しながら配置すべきではないか。連携型中高一貫教育校は現在の配置を維持すべきである。また、併設型中高一貫教育校は当面の間、東部、中央部、西部の3地域の配置を維持したほうがよい」という考え方で整理しています。

これについても皆さんからご意見をいただければと思います。進学拠点校についても変えるというよりは、現状で配置されているので、それを維持していくという方向かと思いますが、よろしいでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

次に産業系専門学科についてです。「水産や看護に関しては、現状の体制でよいのではな

いか。ただし、工業、農業の学科は、今の時代に必ずしも合っていないところもあるのではないか。学科の見直しが必要ではないか」というご意見があったと思います。

方向性としては、「現在の学校の配置を維持する。工業、農業の学科については、社会や時代のニーズに合うように検討していくべきではないか」という方向性で整理しています。これについてはいかがでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

次は、総合学科です。配置は現状で適切である。普通科の特色化を考えると、総合学科を生かしていく方向性がむしろ必要ではないか。従来の普通科へ改編していく考え方はなくてよいのではないかという意見がありました。このような意見を踏まえ、「総合学科は生徒が興味関心に応じて系列を選択することで、多様な進路希望に対応できるという特色がある。それを生かすためには、現在の各地域の配置を維持することに努めるべきではないか。総合学科を生かしていくことが学校の魅力化・特色化に繋がるため、当面は普通科への改編は検討しなくてもよいのではないか」と整理しています。また、総合学科の系列の名前がよくわからないとのご意見があったので、特色化・魅力化のところで皆さんの意見を整理することでよいと思います。

適切配置については、現状を維持することになりますが、いかがでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

次は、定時制・通信制になります。これまでのご意見として、「多様な学びを保障するために、定時制の配置は非常に重要である。通信制の配置は、現状で適切ではないか。ただし、ICTを活用したスクーリングや定時制をうまく組み合わせたやり方がこれから必要ではないか。」方向性になりますが、「定時制は各地域で多様な学びを保障する必要があるため、現在の配置でよいのではないか。通信制は現在の配置でよいが、ICTを活用して定時制の学校と連携する、スクーリングの場所を広げることを検討するべきではないか。通信制と連携したサテライト校化、通信制と定時制をうまく組み合わせた運営の検討が必要ではないか」ということでよろしいでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

最後になりますが、一番下の欄に多様な生徒が学ぶことのできる機会の保障という新し

い項目、これは現在の計画にはなかったのですが、現状では、生徒の多様性が非常に広がっている。また、日本語を母語としない子どもの数も増えています。そのため、多様な生徒が学ぶことのできる環境をつくる。日本語を母語としない子どもが増えているため、高等学校での受入れができるようにする必要がある。

こういう方向性を提示することになるかと思いますが、よろしいでしょうか。

〈了承〉

(委員長)

皆さんからいただいた意見をまとめた方向性に沿って、資料3-3の中間まとめ案を事務局で整理していただく。文言については、「望ましい」や「望ましくない」という価値判断にあまりとらわれない工夫をしていただくところかと思います。

3-3をまとめるにあたって、委員の皆さんからご意見や気になることないでしょうか。

(委員)

多様な生徒が学ぶことのできる機会の保障ですが、方向性としては賛成です。二つ目の日本語を母語としない子どもが増えているため、高等学校での受入れが機能する必要があるのではないか、とすると、日本語を母語としない子どもたちを入試で受け入れることを制度的に整えることがこの中に含まれると思います。制度的担保はどうかと気になり、確認させていただければと思います。

(委員長)

当然そういう生徒を受け入れるための制度づくりがともなってくると思います。何か事務局でお考えがありますか。

(事務局)

多様な生徒を受け入れるにあたっては、入試制度も含めて検討していく必要があると考えておりますが、今のところ具体的な方向までは至っていない現状です。

(委員長)

今後の入試制度の在り方の中で、こうある以上は検討しないといけないし、これは明らかですので、議論していく必要があると思います。

(委員)

日本語を母語としない子どもが増えているためという条件付けがあるので、前のご報告いただいた入試時期をどの時期にするか、学力検査以外の検査をどれだけ組み合わせるの

かということを超えて、入学者の母集団をどこまで広げて、入試の中身や出願を変えるかまで含まれる感じがしています。そもそも日本語を話せない、読めない人たちでも、高知県は高校入試を受けられるけど、受かる可能性がある入試が実施されることまで含めて、前回よりは、踏み込んだ検討になると気になっているところです。だから駄目というわけでもなくて、後から出てくると結構大きなものを背負いこむことになりはしないかなと思っております。

(委員長)

ここで明確に方向性として記述してしまいますと、日本語を前提としない入試や学校での教育の在り方を想定しなければいけなくなると思いますし、特に、日本語を母語としない子どもが増えていることを強調して書いているので、注目される可能性もあります。

そういう方向で、事務局としては、今後対応を考えていただくということにかまいませんか。

(委員)

中学校側は、すごく不安です。日本語、英語、中国語、韓国語でもない子どももおります。県立を受けるのを拒んでしまう可能性はとてもあります。入ってから対応してくれるのか。中学校の授業でも、話をしてくれる支援員が来てくれますが、週に1回です。後はどうするかとなるとアプリでやりとりし、授業をすることになります。そういった子が、どういう入試を受けるのか、進路の話もしていくことになります。子どものことを考えると、こちら辺りははっきりしていただかないと難しい。そして、県立をアピールしても県立にとどまらない状況になると思われます。確実に保護者にも伝えたい気持ちはありますので、ここははっきりとしていただきたいと思います。

(委員長)

入試もですが、入ってからの対応ができるのかというところです。高校側はどうですか。

(委員)

自分の学校を想像したときに、現在の体制のままでは対応することは難しいだろうと思います。だから、この方向性とセットで、入学後の対応も考えていかないといけないと思います。

(委員長)

方向性としてこういうことをうたう以上は、何らかの具体的な対応を提案しないとけません。もう一回事務局に確認しますが、そういう方向性でよろしいでしょうか。

(事務局)

その方向性でいただきまして、今現実にもそういったお子様がいらっしゃる、その子どもたちに対してどのような高等学校の在り方、高等学校をつくっていいのかを私どもがしっかり検討していくことになろうかと思えます。

(委員長)

そうすると、中間まとめではこういうことが非常に重要視されている。これについては、集中的に事務局としてどう対応できるか考えていただいて、最終案でどういう書きぶりにするかは考えたほうがよいかもしれません。

(委員長)

適切配置の次に、魅力化・特色化があります。これは、まだ意見をいただいている途中です。方向性については、現時点での意見のまとめということで、次回以降、議論して報告することになると思えます。今日ご確認いただいた内容をもとに、中間まとめを事務局で作成していただいて、それを教育委員会に答申したいと思えます。

いくつか気になった点があったので戻ります。資料3-2の最低規模のところ、望ましいとすると、望ましくない価値判断にもなるという議論がありました。一方で、生徒が1人2人になっても学校を残すかの議論がされたときに、学校の再編を考えないといけないうっかけになる記述も必要ではないかのご意見が出ています。それは今後ご議論いただこうと思えます。中間まとめでは特には入れません。

それからもう一つ、外国人が急激に増えてくる。都市部ではかなり大きな問題が起こっている、高知県でもしっかり対策を考えるべきではないか。今回は、適切配置の中に言葉として入っているだけですが、重大に捉えるべきではないかのご意見がありました。これは、幼稚園や保育園、小中、高等学校まで関わることだと思います。教育大綱や基本方針でどう扱われているか、事務局でわかれば教えていただきたいです。

(事務局)

教育委員会だけでなく、県で外国の方の受入れとして日本語指導をどうするのか、定期的な協議をしております。その中で、教育委員会もやっているわけですが、高等学校の在り方については対応ができていなかったため、今回検討することになっています。

そして、義務教育につきましては、日本語の支援員という体制をやられてはいるけども、まだまだ不十分ということもありますので、そこは持ち帰って協議をさせていただくとともに、今の状況について、改めてご報告させていただきたいと思えます。

(委員長)

高等学校に関しては、今回こういう形で一言一言が入るだけですけれども、県全体の小中

から幼保まで含めた外国人に対する対応、教育への対応を整理していただくということです。

(事務局)

大綱、教育振興基本計画の中で、外国人児童生徒等に対する日本語教育の推進という項目がございます。概要版には載っていないので申し訳ございませんけれども、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等が生活の基礎を身につけて、能力を伸ばし、未来を切り拓くことができる受入体制の整備や、日本語指導教員等の資質能力の向上の取組など、そういったものを推進するということになってございます。そして、令和9年度末の達成指標としましては、外国籍、日本国籍の日本語指導が必要な児童生徒の受入状況、100%としています。次回、いくつかの関連を含めた支援がありますので、ご紹介させていただいて、改めてご意見をいただければと考えております。

(委員長)

事務局は、次回資料を用意してください。今日の参考資料では、あまり具体的に注目される書きぶりにはなっていないですが、かなり急いで対応を考えるべき課題であるという感じがしました。

他、前半の議論について、追加でご意見よろしいでしょうか。

(委員)

最低規模の方向性ですけど、ここに書いてある目安を下回ると直ちに望ましくなくなるわけではない。しかしながら、今後数年にわたって同じ状況がずっと続いているのも望ましい状態ではない。下回ったら即座に学校をどうこうするという話にはならないけれども、何らかの検討を始めないといけないだろうと思います。

定時制の二つ目のところで、単純に目安とする生徒数を維持できない場合にはという言い方かなと思いますが、ずっと20人を大きく下回ることがみえてきたときには、地域、市町村と連携しながら、教育の質を維持するための環境づくりに取り組んでいくことも検討する必要があるのではないかという書き方にするとよいと思います。

(委員長)

そうすると書きぶりとしては、例えば、将来にわたって生徒数の確保が見込めない場合には、今後の在り方を検討する必要があるのではないかということですね。

2 入試制度の在り方について

(委員長)

入試制度に関する検討のポイントということで、資料 4-1 (1) 学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入、二つ目として、資料 4-1 の (2) です。県外及び海外の生徒の受入れの拡充、(3) 入試の実施時期の見直し、この大きな3点が中心になるかと思いません。

まずは、学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度の導入ですが、現行の入試制度は、すべての公立高校がほぼ同じ選抜方法で入試をしています。今後は、各高等学校の魅力化・特色化を一層進めようということで、生徒が身につける資質・能力も、国の方向性が変わってきていて、知識や技能だけではなく、思考力、判断力、表現力が一層重視されるようになってきています。なので、従来の筆記試験だけでは、国が求めているこうとしている学力をはかりきれないのではないかと。先ほどの議論でもありましたが、多様な生徒が学ぶ機会をどうやって保障するのか、こういう観点から、学校の魅力化・特色化を踏まえた入試制度、学力検査以外のずっと以前に行っていた面接推薦入試について検討する必要があるのではないかと思います。

資料 4-1 は専門部会での議論ですが、(1) のア、イではなぜそういう入試が必要なのか。誰にとっての魅力化・特色化かを明確にする必要がある。高等学校はスクール・ポリシーを打ち出しているのだから、生徒像を明確にし、中学生や保護者に知ってもらうようにしないといけない。生徒の適性に合った学校に進学できるように、個人の生徒の特性や力を伸ばしてもらおう。それを測る方法として、これまでの学力検査プラス別のものがあつた方がいいのか。義務教育でも探究やICTの活用が充実してきているので、知識のみのテストでは、はかれないものが評価される入試があつてもよいのではないかと。部活動や特別活動を評価する余地があるのではないかと。このようなことが、専門部会で議論していただいているところです。

魅力化・特色化を踏まえた入試制度の在り方について、皆さんからご意見をいただければと思います。どなたからでも結構ですが、最初に中学校の立場から、お聞きしてもよろしいでしょうか。

(委員)

悩ましいです。過去には推薦入試がありました。子どもは、自分で自分の将来を考えて高校を選ぶべきだと思うので、校長推薦は私自身反対です。そういう部分では、キャリア教育でしっかりと学習させなければいけないという気持ちはあります。

それから、特色化選抜ですけれども、高校の先生方に来ていただいて、学校説明会をやりまします。毎年一人の子どもが3校の先生に意見を聞きますが、やはり先生方のプレゼン力で流されてしまうことがあります。冊子やインターネットで、中1の時から自分がどういう方向に行きたいかキャリア教育の中で調べて、中学校2年生ぐらいからこの高校に行きたい、

そして、中3になり、学校説明会で高校の先生方から話を聞いて決めていた高校への進学をやめようかなとなってしまうことがあります。高校に行って楽しいかどうかに関心があるみたいです。保護者も説明会を聞いてもよいのですが、子どもの意見を尊重する保護者の方もいるので、まずは学校説明会じゃないかなと思います。中学校の教員から聞くよりは、高校の先生から直接聞いた方が子どもたちは信頼が置けます。

それから、探究。ICTを全教科で使っていますが、子どもたちは大人が考える以上にクロムブックをすばらしく使いきります。クロムブックを使って入試ができるのかどうなのかも、子どもたちから聞かれたことがあります。ICTでアンケートをとったり、振り返りをさせたりしているので、「高校入試はこんなのはできないんですか」と、中学校3年生や生徒会が言ってきたりしている現状もあります。そういう入試の検討も必要かなとは思いますが。

ただ、部活動、特別活動における評価は難しいかなとは思いますが。部活動も生徒の半分が入っておりません。部活動の地域移行をしている現状なので、評価することは厳しいのではないかなとは思いますが。いろんな選抜方法は考えられると思いますので、その高校の特色に合わせた選抜方法に、中学校側としては受けさせていただくという思いなので、高校側から提案をしていただけたら、また、中学校の進路指導も変えていく必要があるかと思えます。高校入試が変わると、中学校や小学校も変わっていかねばいけないと思えます。

(委員長)

事務局から、補足ありますか。

(事務局)

説明不足だったかもしれませんが、特色化選抜と申しますのは、現在すべての学校ほぼ同じ入試制度になっているのをどうにかしたいというところから設定できればと考えているもので、先ほど申しましたスクール・ポリシーの中にも、入学者の受入れに関する方針も出されます。ポリシーに合った生徒さんを受入れる、それぞれの学校によって独自の特色ある選抜方法がとれないかというのが、この特色化選抜というところにあります。ですので、すべての生徒さんに部活動で選抜をするわけではなくて、うちの学校は部活動を特色にしているから、部活動したい子は来ませんか、そういった学校独自の選抜方法が、特色化選抜ということになります。また、推薦入試の復活は今のところ考えておりません。

(委員長)

今いただいた意見で思うのが、大学でも期末試験をやります。スマホは持ち込み禁止ですが、世の中の現場に行ったら困ったときに、スマホを見てはいけない状況は絶対になく、スマホを見ようが、パソコンを見ようが、何してもいいから問題を解決するように言われます。だから、頭に入っているものだけで回答しないといけないこの試験でよいのかなと思いま

す。そこは実社会との差を感じるどころです。

高等学校の立場はどうでしょうか。

(委員)

自分の学校でどんなことを考えたらいいかと思ったときに、大学の総合型選抜が最初にイメージとして出てきた。定員に対して何%かの生徒が特色化選抜で、それぞれの学校のスクール・ポリシーやいろんな学校の活動を見ながら、「ここで学習しよう」、「部活動を一生懸命やってみよう」となったうえで、自己推薦として中学校3年間どんなことをやってきたかをまとめ、プレゼンをやってみる。そのプレゼンを、私たちも評価をさせていただいたり、小論文でもよいですし、5教科を課してみる方法も考えられる。

もしくは、それがなくても、特色化で合格した後、入学までに一定の課題をやっていく。そんな制度ができたらい面白い選抜の仕方になるのではないかなと思いました。ただ、これをやるとなったら高校の教員もかなり勉強して、しっかりやらないと、選考するわけですので、非常に難しさがある。それだと、1月ぐらいの試験になるのか、それとも12月ぐらいにしないとけなくなるのか、そんなことを思いながらみさせていだいて、特色化はこれからの子どもたちにとって、思考力や表現力、自己表現というところでは、とても必要な能力になってくるのかなと感じました。

(委員長)

従来だと小論文が表現力だったのかもしれませんが、パソコンでプレゼンすることは、中学校ぐらいでもやっています。小学校からもやっている。そういう能力の測り方って一つあるかもしれません。プレゼンの中で、対話力、思考力、判断力も評価できるのかもしれない。

(委員)

先ほど部活動の話をしたんですが、全員ではなくて一部では、僕は絶対合格するというふうに思い込んでいる子どもたちがいる部分もあるんです。そして、残念だったときのフォローは中学校となってしまうという気持ちで言いました。

だから、県外の入試でも、あるクラブで全国大会にどれぐらい出場したかを書く欄がありましたので、そういうのを踏まえて判断をしていただいたらいいんですが、フラットな状態だったら、なかなかその後のフォローが厳しいと思います。

先ほど高校側から言われましたが、1月、12月の入試は厳しいですので、中学校としてはうんとは言えない状況があります。

(委員長)

3点目の入試の実施時期の見直しは、この魅力化・特色化を踏まえた多様な入試を考えよ

うとすると、かなり前倒しをせざるを得ないのは間違いない。ただ、中学校の現場からすると、1月はしんどい。2月以降がぎりぎりでしょうか。

(委員)

学校の体制や教職員の業務を考えるとそういうことになるのかもしれませんが。この協議をするうえでの前提として、学習者の視点で、生徒たちの視点で方向性を出していこうということでしたので、実施時期のことについては、あまり述べないようにします。

(委員)

実施時期は、中学校と高校は絶対に交わらないと思います。だから、子どもたちにとっていつがよいのかという視点で考えないといけないと感じます。中学校側の先生方も授業との兼ね合い、落ちた子どもたちを考えると3月。でも、高校側からすると早く進路決めてとってくるので、すごく難しいところだと思います。子どもたちにとって何がよいのかを考えて、これまでの入試も順番に変わってきています。最初の入試50%から、今度は80%をとっていこうと考えて、これも県の方針として50%で落として、二回目の入試をしてというよりも、100%とって順番に変わってきているので、絶対中学校はこれです、絶対高校はこうですではなく、子どもたちに何が重要なのかを話していかなければいけない。推薦入学のこともそうですけども、昔、学校は先生の推薦状で進路が決まってしまうと、受ける子どもたちは大変だったとも聞いております。

徐々に時代も変わっておりますので、私たち大人が変わって子どもたちによりよい方向にと思ったことをございます。

(委員長)

一番重要な視点は、子どもたちの立場で考えることです。子どもたちの立場で考えると、学校の教育スケジュールは大前提だし、他の進路を考える人もいるので、私立や国立であると日程がどうしても考慮せざるをえない。考慮したうえで、教員がどう対応するかを頑張ってもらうことにして、子どもの目線で考えたいということによろしいでしょうか。

(委員)

特色化選抜の規模感はどのくらいか気になっています。それぞれの学校の魅力を発信すると、興味ある子たちがそこに出願して受験していくのはよくわかります。高校の特色が入試の中身に反映されるとなると、中学校までにそうした特色のあるものとマッチングした授業を受けていたり、能力形成をされていることが含意される気がします。中学生が身につけている個性や将来に対する期待と、高校で形成されるキャリア教育の中身は随分違って、高校はより具体化して、中学校段階はより抽象的だと思うわけです。

なので、高校の特色が入試内容に反映されて問われることになればなるほど、中学校の教

育の中身が、高校の入試の中身に規定されていくことになりはしないかと、結局、高校の勉強の一部が、大学の共通テストの中身に統制されているという議論になりはしないか。かといって、魅力化している高校に、面白そうだと思った子たちが行ってくれることが重要と思うので、特色化選抜はあくまで例外的に扱い、あまり普遍的にはやらない方がいい側面もある気がしています。やった方がいいと思うのですが、規模感がどのくらいかは慎重に議論する必要があると思っています。

(委員長)

全部を特色化選抜するわけではなく、ある一定の割合は高校の特徴を出す入試をやる。そうでない入試もあるというイメージですね。

(副委員長)

県外生徒の受入れの拡充というところで、今まで嶺北高校で4年間、やっていますけれども、そこでのメリットデメリット等もご紹介させていただけたらと思っています。

まず、前回の資料3-2にあります3の(2)で、生徒の県外及び海外生徒の受入れの拡充についてという表現があるのですが、今日の資料4-1の専門部会では、2の(2)県外及び海外の生徒の受入れについて、「現段階では入学定員の充足率等のメリットが大きいということであれば、拡充をする方向でよいと思う。」というご意見も出ています。例えば、寮のこともあるので、おそらく今やられている高等学校魅力化の県外受入れについては、キャパシティがいっぱいではないかと思えます。そもそも嶺北高校でも、地元からの進学が少ないということで、「プロジェクト41」という中では進めていきましたけれども、数を何人外から入れるかということだけでなく、どういった思いのある生徒たちに来ていただくかが、非常に重要でないかなと思うところです。そのことによって、地域の子どもたちがいろんな部分で刺激も受けつつ、或いは卒業生や在校生を中学生が見たときに、魅力化というものが伝わっていくのではないかという思いがしているので、単に拡充することがどうかという思いがあります。

もう一つは、嶺北高校の場合には、1年生で入学をしていただいて3年間嶺北高校に在学をするパターンももちろんですけれども、1年だけの短期留学もやっています。そして、それぞれの地域によってやり方であったり、求める生徒像も違うと思えます。特にお願いしたいのは、どういった学校が地域で必要なのか、或いは地域で必要な学校には先生方がどういった働きをしていただいたくのが一番よいのかをしっかりと事務局の中、学校側であったり、或いは保護者、委員の方という部分で議論していくのが重要じゃないかと思っています。

(委員長)

資料4-1の書きぶりは充足率を上げる数合わせのメリットがあるというふうにも読めて

しまう。むしろ、特色化選抜の議論に近い。こういう生徒を求めるから、県外からもぜひ来てもらいたいという趣旨の発信をするべきではないか。短期留学はどんな制度かわからないので、教えてもらっていいですか。

(副委員長)

私も直接高校側から聞いたわけではございません。募集をかけて、2年生から3年生の1年間、1年生から2年生の1年間であったり、2年生だけの1年間であったりと生徒が域外から来る。実質、受入れをしていると聞いています。

(委員長)

もし事務局でわかればお願いします。

(事務局)

2年生の時に1年間、他県の高等学校から、他県の高等学校の籍のまま、嶺北高校に1年間だけ交流することがあります。「地域みらい留学 365」という制度で365日、この1年間だけ、他の高校を体験してみませんかという柔軟なやり方で、高知県内でも嶺北高等学校だけが今やっているところがございます。今年度は逆に嶺北高等学校の生徒が、他県の方へ1年間だけ行くことも実現している状況でございます。

(委員長)

それは他県の高校と、交流協定みたいなものがあるんですか。

(事務局)

前年度にこういった経験をしたい、他の学校へ行ってみたいということがありますと、事前に各学校同士でやりとりしまして、必修科目、学ばなければいけない科目もありますので補習等で対応するなど、前年度に打ち合わせができたものに対して、今年度は2名ですが、嶺北高校で受入れられていると聞いております。

(委員)

娘が中学3年生で、先ほど言われていた学校説明会に呼ばれていますが、選択できるのは、3校です。3校も希望を出した3校、全部がわかるわけではない。今回のA日程、B日程といったときに、B日程で選択できる学校は聞いたところによるとすごく狭まっている。A日程で定員に達しているかどうかわかりませんが、狭まっている。情報のない学校を選択するところが非常に怖い。ところが、そこから調べないといけなくなるので、多分1日、2日ぐらいでどこに行くかを決めることになる。中学3年生15歳が決断するという形になるところら辺が、情報を提供するところでいくと、まず資料を保護者に渡すであったり、説明聞け

ば一番いいんですけど、そういったところについてご検討いただきたいと思います。

先ほど言われたのですが、B、C、大体B日程で終わると思うんですけど、狭まっていく中で、実際、定員割れだとしても募集がない学校があるのかお聞かせいただきたいです。

(委員長)

事務局からこの春の入試の状況について、今の観点、A日程、B日程、もう一つは、高校から中学生への情報発信の仕方あたり補足をいただければと思います。

(事務局)

まず、中学生に対する情報発信ですが、ハイスクールガイドというものを作成しております。これは県のホームページにも記載しております。そこには各学校このような生徒に来ていただきたいという、いわゆるスクール・ポリシーに繋がることも書いておりますし、高校卒業後の進路先の情報も載せております。それが、中学生なり、保護者の方にまで周知ができていないかは課題であると思いますが、そういったことはさせていただいております。

それから、今年度の高等学校の入学者選抜の合格者数の状況は、本日の資料4-2に載っております。左側が全日制で、A日程とB日程に分けておりますけれども、A日程で定員をすべて充足した場合には、B日程が実施をされないということになります。この学校は確実にB日程があるということは、年々によって状況が変わってくることもございます。我々も課題の一つだと思っております。例えば、追手前高校です。ここ近年定員割れが5年も6年も続く状態ですけども、A日程で追手前高校不合格になったとしたら、進学を考えていたら次は、国際高校、小津高校ということになるろうかと思うのですけれども、B日程でこの2校は、例年募集がないことが多い。となると、B日程で募集のある学校を受検することになる。そういったことからチャレンジをしてくれる生徒さんが、最初から敬遠をしているのかなというところも課題と捉えております。

(委員)

受検する前に、願書を出すじゃないですか。その中に、第1希望どこどこ高校、第2希望どこどこ高校というのはありますか。

(事務局)

ありません。ただし、同じ学校の中に複数の科、コースを持っているところにつきましては、この科を第1志望、この科を第2志望とすることはできます。ただ、学校を変えて、第1希望、第2希望という出願はできません。

(委員)

わかりました。

(委員長)

顕著な例としては、追手前高校が定員割れしてしまう。追手前高校をA日程で選ぶことにリスクがあると思い、落ちると次にB日程出せるところがないという非常に難しい問題があります。

学校説明は、文書的なものじゃなくて動画配信はないんですか。高校の先生が中学に行つて説明する動画を各学校が配信することってないんですか。

(事務局)

今のところ説明会用の動画はないのですけれども、ほとんどの高校が中学校に対する説明会は、パワーポイント等でやっていると思いますので、集めてホームページに載せるということは可能かなと思います。ただ、それをビデオで撮って音声もということになると難しいかと思います。

(委員長)

スライドを YouTube にアップするのは簡単にできそうな気がします。その方が子どもたちは見やすい、細かいところは逆にわからないかもしれないですね。

(事務局)

全ての学校ではないですが、おっしゃっていただいたPR動画を学校独自に作成している学校がございます。それぞれの学校のホームページ、YouTube にアップしているところもありますが、全県足並みをそろえるまでにはいつてない状況です。

(委員長)

学校によっては、得意な先生がいなくなかなか動かないので、どこかでやってあげてもよいのかなという気がします。

(委員)

今回、入試が話題になっていたのので、高校生に意見を聞きました。そしたら、A高校目指してみたいけどもし駄目だったら他に道がなくなるので、なかなかトライできない子が複数おりました。かなり前ですけど、私の娘のときは、前期選抜、後期選抜があつて、前期で落ちました。でも、後期でもう一回トライして、何とか行きたいところに行けたことも考えたら、制度自体が元に戻ることはないかもしれませんが、そういう現実があることは、言っておきたいかなと思いました。

それと、ハイスクールガイドがあることは知りませんでした。今日の資料4-1の2の(1)で、専門部会の先生たちのご意見で、「中学生や保護者に学校を知ってもらう努力をしなけ

ればならない。」そういうものがあるので、先生方さえ知らないということではないかなと思います。

前々回だったと思いますけど、進学校のレッテルがあるとないのでは、生徒が行く気がないと言われたけれど、先生からここは進学校でないがこういう道もあると説明してあげたらよいと思いました。中学校の先生たちは、清水に住んでいたなら中村、宿毛などの近くだけではなく、生徒たちに全体の高校の特色、スクール・ポリシーも把握されたうえで、説明してあげる時間が必要だと思いました。中学1年生からホームページで見られている生徒がいることはすごいと思ったんですけど、そうでない子どもの方に、親は特にできてないかもしれないので、中学校から高校進学に向けての情報発信を充実していただいたらよいのではないかと思います。

(委員長)

中学校としてはどうですか。高校の情報がいかに保護者に伝わるようにするか、ということはどうですか。

(委員)

各学校でハイスクールガイドを校長が知らないことは絶対にはないです。それから、進路だより、各中学校で必ず配られると思うんですけども、その中にも一応アナウンスをするようにはしています。学校によって差があるかもしれません。進路のことを真剣に考えるということは、他の学校でどれぐらい言っているかで、教員も若くなっている部分もあります。それから、若手教員の中には県外から来ている者もいるので、入試制度がはっきりわかってない方がいるのも事実です。昨年度そういう状態がありまして、高知市出身は半分でしたので、研修という形で管理職と一緒に話をしました。やっている学校もあることは、お知りおきいただきたいと思います。

それから、保護者の立場で学校へ言っていただくのはOKですので、資料が滞っている、わからないというのがありましたら言っていただけたらと思います。事務局からのハイスクールガイドの通知は来ています。

(委員長)

関係している人はよくわかっていて、みんながわかっているだろうとつい思ってしまいますが、わかってない人も現場にいる。そうすると中学生に直接繋がるのは、動画という気がします。インターネットで高知県の高校全部の動画を見ることができて、かつ、個々の学校の特徴ある動画があってしかるべきかなという気がします。全高校の概要、高知県の高校はいかに楽しいかという動画を考えていただければと思います。

(委員)

学校の特色を見える化する必要があると思います。今の中学生、中学校以下の小学校の子どもさんたちの興味を引くことが必要で、動画が一番わかりやすいと思います。文章で書いた冊子はほぼ見ないと思いますし、各高校のホームページをまず充実させる、私学に絶対負けないPRができる。そして、どういうことが学べるか、どういう先生がいるのかを中学生が見て楽しんで理解できるものがあると思います。そこには、絶対お金をかけるべきだと思います。そこが十分伝えられてない、高校の先生が伝えないといけない。学校説明会で話を聞くことができる3校だけでなく、全校分を自分で調べて見ることができる。個人のスマホで簡単に見れるものにしていく必要があると思います。そうすれば、今出てきた問題がほぼ解決するんじゃないかと思いました。各校のホームページも簡単に紹介しているのではなくて、掘り下げて見える化している、そして楽しい、わかりやすい、そういったものが絶対必要だと考えます。これは、企業では当たり前で、そういうホームページを作っていないところに、誰も人は来ません。募集しても、まずホームページや動画、会社が発信しているものを見て興味を持ってもらうところから始まると思います。そこがないこと自体が今の段階でおかしいと思います。今の世の中だったら当たり前だと思いますので、ここは予算を大きく計上し、プロを入れて充実させていただきたいと思います。

次に、入試の制度についてですが、高校がどのような入試をするかによって、中学でどのような力をつけたらよいか問われるわけです。それを考えるときに、今の世の中でどういう力が求められているかをしっかり意識して、例えば、今から大人になっていく生徒さんにとっては、AIと仲良くしながら仕事をしていく。そして、多国籍の人たちと一緒に仕事をしていく。それから、自分の考えをきちんと表現して、理解してもらえるように、例えば、先ほどもプレゼンテーションの話が出ていましたが、そういうことが普通に必要です。世の中ではICTを自在に使いながらやっていく必要があります、それを考えたうえで高校入試がどのようにあるべきかを考えて、中学校、小学校の延長線上の入試が必要だろうと思います。もちろん基礎的な力も測る必要があるかもしれませんが、基礎的な力と総合的な力、そして、ICTを実際に使っていける力も必要だと思いますので、従来の試験では絶対に駄目だと思います。

世界と競争できないと日本人の将来はもうないと言い切ってしまうとよいかわからないのですが、企業側からすると世界と競争をし、その中でどう生き残れるかというところで、そのための人材を強く求めています。それは、工業系に限らず、その他の分野でも同じだと思います。だから、新しく変えていく、日本の産業をつくり出していくことができるよう子どもたちの力を伸ばしていくために、入試がどうあるべきかということを考えて、大きく変える必要があると思います。全国に先駆けて、高知県に取り入れてもらいたいと思います。この入試制度の導入、学校をどう選択するか中学生が困っているところでは、最低限必要と思われましたので、お話をさせていただきました。

(委員長)

前半の動画を作ってお金をかけて、高校の先生が趣味でやるんじゃなくて、外部の専門家が高校の特色を発信する動画を作ってくれるようお願いをした方がよい。それから、入試では、社会が求める力を意識する必要があると思います。小中学校でつけるべき力が変わってきているけれども、高校の入試がそこに追いついていないのかもしれない。

そうすると、中学校で頑張ってつけている力を入試で評価していただきたいのは、先ほどお話がありましたプレゼン以外にお考えなどありますか。中学校でこういうことに力を費やしているけれども、高校においてぜひ見てもらいたいということありますか。

(委員)

難しいです。多様な子どもたちなので、それに応じてやっていただきたいと思うんですが、個人面接だけではなく、言われたように、自分の意見を持ちながら相手の意見を聞きながら、それに対応して、話ができる、表現できる子どもたちは、勉強ができるできないではなくて、社会を担っていける人材になると思うんです。これからの高知県を担う子どもたちを育成したいという気持ちで頑張っているのも、何人か集団で、相手の意見、テーマが与えられて、それに対して、ああでもないこうでもないといった議論を踏まえて、「私の考え方はAさんから聞いた話と同じ意見だけどちょっと違うんですね」というような表現ができる、ICTだけではなくて協働的な学びをしながら、友達の意見を聞いてどう思うかというのをやっています。

中学校は答えを導き出す過程を大事にする、どうしてこうなったか、何が根拠でこうなったのかという感じで議論をさせる授業改善をしているので、間違っているでも自分の意見はこうですという表現ができるのは素晴らしいことじゃないかなと思うので、そこをぜひ見ていただきたいと思います。高校入試の短い時間内では難しいかもしれませんが、多様な子どもたちがいろんな考えを持って高校で頑張ると思うので、ぜひそういうふうな道を開いていただきたいなと思います。

(委員長)

難しいですけど必要な力として、周りの人の話を聞いて自分も発信する、対話力や協働的な学びですかね。そういうものになじめる力を評価したいということですね。

(委員)

評価をする中で結局相手のことを認め合いながら、中学校は人格形成を最も大事にしていますので、その部分で、人との関わりを考えながら、自分を表現していく。そこが3年間培ったことを評価していってもらえれば。一緒に受ける仲間という意識も大事だと思いますので、難しいことだと思いますが、将来的にはそんなになるのではないかなと思います。

(委員長)

逆に高校側としてもそういう制度で入ってきてもらいたいというのは間違いなくあるわけですから、どう評価するかは確かに難しいです。

(委員)

特色化選抜の中身としてはプレゼンや集団討論の場を設定する。学校の特色、ポリシーに合わせて、そういったものをつくることはできるんじゃないかなと思います。最終的には規模感、全体のうちどのぐらいの割合にしていくのかを考える必要は当然あると思います。

それから、高校としても最終的な出口の保証もありますので、授業の中で教えたことを、しっかりと自分で考える力に変えていく学習方法は高校でもやっていますし、総合的な探究の時間で、子どもたちが興味関心を持ったテーマについて調べ、調べているうちに、知識や自分の深く学ばないといけないことを学んでいく。総合的な探究の時間と5教科を横断しながら学習していますし、学習だけでなく部活動も当然やりながらということになるかと思います。特色化の中に、先ほど部活動はなかなか入れにくいという話もありましたが、例えば中学時代の部活動であったり、それからスポーツクラブでの活動であったり、ただ勝つという目標ではないはずなので、自分自身で目標を立ててその目標に向かって、自分たちがどのようにアプローチしたか、アプローチしている姿、プロセスを表現する、それを成果として、特色化のところで求める学校も、もしかしたら出てくるかもしれないと思ったことです。最終的に規模感を考えることは必要だとは思いますが、制度があっても、資料3-1の1の(2)の「目指す人間像を実現するための基本目標」を見ると、自分の将来に向けての繋がりを見通した学びや体験ができるところが大事じゃないかなと思うので、そういったところは導入していけば充実した形になるかなと思いました。

(委員)

ずっとこの議論の中で今の入試制度もそうなんですけど、もう少しこうしたらいいんじゃないか、これも取り入れたらいいんじゃないかという話もたくさんありますけど、現場の中学校や高校、教育委員会、足し算だけでは、業務もたくさんありすぎて、大変だなと思います。それまでやったこともスリム化しながらできることをしていかないと、今、働き方改革という話もありますので、足し算だけでは駄目かなと思います。

(委員長)

スクラップアンドビルド、何かをやめていかないと新しいことは多分できない。

時間になってしまいましたが、入試制度の在り方はもう少し議論しないと方向性が見えてこない感じはしています。今日いただいたご議論は事務局の方でとりまとめていただこうと思います。中間のまとめとしては、早めに提出することになっていますので、今日のご意見を踏まえて、多少加筆修正させていただいて、次回の委員会で確認になります。今回の中間まとめの報告は、今日の議論を踏まえ、私と副委員長で確認させていただいて、教育委

員会には提出させていただこうと思っています。

それから次の第6回については、学校の魅力化・特色化、入試制度の在り方を深掘りして
いきたいと思しますので、今日の議論を踏まえて、普段の生活の中で思いつくことがありま
したらメモしていただいて、次回ご紹介いただければと思います。